

COP10会議で新たな世界目標が採択

生物多様性条約第10回締約国会議の開催

平成22年(2010年)10月に、名古屋で生物多様性の保全と持続可能な利用を目的とする国際会議、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。

本県にとって、世界屈指の古代湖である琵琶湖の価値を世界に向けて発信するまたとない機会であるため、滋賀の人々の生活文化と自然との関わりの中で育まれた湖国の生物多様性について、その現状と県の取り組みについてPRを行いました。

国際会議(COP10会議)の概要

会議は、平成22年(2010年)10月18日から29日まで、「いのちの共生を未来へ」をスローガンに名古屋市の名古屋国際会議場で開催されました。



この会議には、180の国や関連国際機関、市民団体など1万3千人以上が参加されました。

また、隣接する会場では一般の人々が生物多様性の考え方に触れる機会として、「生物多様性フェア」も開催され、11万8千人の来場者がありました。

この会議では生物多様性に関する新たな世界目標(愛知目標)や遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)に関する名古屋議定書が採択されるなど、大きな成果がありました。

滋賀県が実施した関連事業

生物多様性の保全に向けた滋賀県の取り組みの世界への発信、県民の生物多様性の認知度の向上を目的に県内での巡回展示、名古屋会場の「生物多様性フェア」でのブース展示、会議参加者の滋賀県内視察などを行いました。

その結果、「生物多様性」という言葉の意味を知っている、もしくは聞いたことがあると回答された人の割合は90%となり、多くの県民に認知されるようになりました。

● 県内での巡回展示

「ほっとけん! 淡海のいきものにぎわい〜国際生物多様性年記念巡回展示〜」として、生物多様性年にちなんだポスターを制作し、平成22年5月から、県内各地の図書館、博物館など21箇所で開催しました。



● 名古屋会場展示(「生物多様性フェア」)

本会場に隣接するエリアで開催された「生物多様性」フェアに参加し、本県の生物多様性に関する展示を行いました。



● エクスカーション(会議参加者の現地視察)

全部で23ある公式のエクスカーションの1つとして、10月23日・24日に、海外からの会議参加者を中心に、「水と人の関わり」をテーマに1泊2日の日程で、体験型の見学を実施しました。

このコースには、約30名が参加され、琵琶湖博物館、近江八幡水郷巡り、針江かばた、農家民泊、山門水源の森などを視察されました。



近江八幡水郷巡り



針江かばた見学

● そのほか

■ 「生物多様性国際自治体会議」

10月25日・26日に開催されました世界各国の自治体の首長が参加する国際会議であり、本県からは、嘉田知事が、25日に「魚のゆりかご水田プロジェクト」を中心に発表されました。

■ 「生物多様性 里山知事サミット」

10月19日に国内の5県(愛知、石川、兵庫、静岡、滋賀)の知事、副知事がそれぞれの取り組みを紹介し、生物多様性の保全に向けた共同声明がとりまとめられました。

■ 滋賀県経済同友会によるフォーラムの開催

10月23日に滋賀県経済同友会が、「生物多様性を企業戦略と地域活性化の推進力に」をテーマにフォーラムを開催されました。